



## 筑波大学メールマガジン ペデジャーなる 2021 年 - 秋号 -

OG・OBと学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を  
季節の便りとしてお届けしていきます。

### \*\*\*\*\* INDEX \*\*\*\*\*

1. 『筑波山「へ」のぼる 後編』/中村瑞歩  
筑波山麓を散策
2. 『結の器プロジェクト』/山田優芽  
やきものでつなぐ地域の絆
3. 『TXと筑波大生』/加藤総一郎  
「宅通」学生の叙景
4. 『ペデの今 課題と展望』(上)/西村大祐  
完成から50年弱が経過 ペデが抱える課題とは



### 🌸 1. 筑波山「へ」のぼる 後編



寒くなってきましたが皆様はいかがお過ごしでしょうか。つくばは秋風が吹いたと思っ  
たらすぐに寒風が吹き荒ぼうとしています。毎年思っていますが年々秋がなくなってきた  
ように思えます。

さて、前回の記事からはや 3 カ月、真夏の暑い夕方に歩いていた筑波山麗もすっかり装いを変えております。そんな筑波山の麓を、「筑波山『へ』のぼる」と題して、筑波山というよりもむしろ筑波山の麓を筑波山に向けて行く道のりを紹介する本企画ですが、前回は「つくば道の碑」をスタートして「普門寺」に立ち寄って歩いてきました。

今回も紙面の許す限り筑波山「へ」の道のりをレポートしていきたいと思います。

さて、今回立ち寄った最初の目的地は、つくば市神郡にある「蚕影（こかげ）神社」（つくば市神郡 1998 番）です。小さい山の上に蚕影神社はありました。その入り口は緑に覆われていて秋晴れの青空とコントラストを描いています（①）。階段下には、神社の由緒を書いた看板があります。



① 蚕影神社入り口

蚕影神社は稚産霊神（わかむすびのかみ）・埴山姫命（はにやまひめのみこと）・木花開耶姫命（このはなさくやのひめのみこと）を祭神とする神社で、境内の案内板によると、成務天皇（84～190）の時代に筑波国造として赴任した忍凝見生命孫（おしこりのみこと）・阿部閑色命（あべしこのみこと）が、農業と養蚕業の信仰のために、鎮祭し、この地に建立したといわれています（諸説あり）。古来より有名であった常陸紬（現在の結城紬）や、絹川（現在の鬼怒川）、蚕飼川（現在の小貝川）等の養蚕にまつわる文物の名前や地名が、蚕影神社がこの地に建立されたことと関係があるようです。

木漏れ日が注ぐ階段を 5 分ほど登ると、蚕影神社の拝殿が現れます。観光地化された有

名な神社とは異なって、手付かずに印象を持つ拝殿ですが、それが故に自然な雰囲気が残されていて、神社という空間に対する素朴な信仰心を思い起こさせます。



②蚕影神社（筆者加筆）

一方で、拝殿脇の集会場のような場所に掲げられていた表示には、大正時代や昭和時代にこの地域の人々が納めた看板などがあり、古くから継続的にこの神社が信仰されていたことがわかります。また、拝殿へ上がる際の階段（写真赤丸部分）は筆者が以前蚕影神社を訪れたとき（2018年11月）から、修繕されており、この神社の地域の信仰の場所として、また文化財としての重要さを感じます。

本日訪れた2箇所目にして、筑波山「へ」登る終着点は、筑波山神社へのはっきりとした山道が現れる最初の地点にある「一の鳥居」(③)です。鳥居近くの案内板によれば、現在の一の鳥居は1759（宝暦9）年に造立されたもので、いまは無くなってしまっていますが、「天地開闢 筑波山神社」と書かれた額が掲げられていたそうです。また、この鳥居の上からが神域とされており、現在でも毎年4月1日と11月1日に行われる「御座替祭」では、お神輿がこの鳥居まで降りてきます。写真を撮影した11月6日は、秋晴れの土曜日で、筑波山登山を目的とした観光客や、サイクリングを楽しむために大勢の筑波山神社へ登っていく人が鳥居をくぐり抜けているのが印象的でした。



③一の鳥居（筆者加筆）

見にくくて申し訳ないのですが、写真の赤丸で囲まれた部分には、かつて何かがあったような台座が残されています。実は、この台座には、「筑波の一王」と呼ばれている金剛力士像が立っていました。しかし、明治時代の廃仏毀釈の際に、移動されてしまって現在は東京文京区の護国寺の境内に祀られています。筑波山と東京の間に意外なつながりがあるって驚きました。

さて、筑波山の入り口とも言える筑波山神社一の鳥居にたどり着くことができたので、今回の企画「筑波山『へ』登る」の筆を擱こうと思います。前編では夏の夕暮れに「つくば道の碑」から「普門寺」を歩き、後編では秋晴れの朝に「蚕影神社」から「一の鳥居」を辿りました。時間も気温も筑波山が見せる表情も、全く異なっており何度辿っても飽きない筑波山麗の魅力がそこにありました。皆さんも久しぶりに筑波山、そして筑波山の麓を歩いてみてはいかがでしょうか。

（生命地球科学研究群 地球科学学位プログラム1年 中村瑞歩）

筑波大学の卒業生・修了生は、連絡先のご登録をお願いします。  
ご登録いただいた連絡先に、ホームカミングデーや大学からの情報をお届けします。

登録フォーム：<https://forms.office.com/r/0ndsbfM04q>



## 2. 結の器プロジェクト



秋も深まってきたこの季節。「芸術の秋」ですね。

筑波大学には、やきものを通して地域の交流を深める活動をしている団体があります。その名も「結の器プロジェクト」。今回は団体メンバーへの取材を基に、同団体について紹介していきます。

### ■「結の器プロジェクト」とは？

結の器プロジェクトは、東日本大震災でつくば市に避難してきた方とつくば市民の交流の場を作ろうという目的で、2013年に始まりました。芸術専門学群及び大学院が開いている授業の一環です。毎年10人ほどの受講生が、つくば市の住民を主な対象に陶器作りのワークショップを企画・運営しています。

陶器作りのワークショップは「みんなで一つの器を作り上げる」ということがコンセプトです。むしろ、「ひとりでは作れない」ようにするそうです。参加者はグループに分かれ、土をこねるところから、成形するまで協力して作り上げます。グループで一つの器を成形したり、それぞれが作ったパーツを交換しあってそれぞれの器を完成させたりと、年によってワークショップのあり方はさまざまです。しかし、個々人が一つの器に向き合って黙々と作業するのではなく、一貫して共同で制作しています。そして、完成した器を使った食事会を開いて交流を楽しみ、プロジェクト完了です。

ワークショップは年に1~2回ほど開かれています。2018年からはつくば市に避難してきた方とつくば市民の垣根をなくし、つくば市民を中心とした地域住民の交流の場となっています。

2016年のワークショップのテーマは「誰も見たことのない器をつくりませんか」。4人一組でそれぞれがパーツを作り、それらを組み合わせることで一つの器が完成するものでした。以下の動画で制作過程を再現した様子が公開されています。(柔らかい粘土をこねている様子を見るのってなんだか気持ち良いですね。四つのパーツが合体するところが見どころです！)

<https://www.youtube.com/watch?v=KryFsbNoRbA>



動画制作のために 2016 年の器を作る様子を再現（同団体提供）

#### ■ コロナ禍「おうち花瓶」の制作

昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、対面でのワークショップは中止に。オンラインでのワークショップに挑戦することになりました。事前に制作セットを参加者に送り、当日はオンライン会議システム「Zoom」でつないで開催しました。作ったものは「おうち花瓶」。花瓶全体が家のデザインになっています。コロナ禍で呼びかけられていたステイホームに関連させた企画で、「お花で彩りを添えておうち時間を楽しくしよう」という思いを込めたと言います。



参加者が作った「おうち花瓶」（同団体提供）

一方で、オンラインならではの難しさもあったそうです。メンバーからは、「参加者は手が土で汚れてパソコン操作がしづらかったのではないか」「対面の時よりも参加者同士のコミュニケーションが取りづらいためつながりを感じにくく、オンラインの難しさも感じました」という声もあがりました。

## ■これからの活動

結の器プロジェクトは今年で9年目を迎えました。今年はワークショップを完全に中止し、これまでの活動をまとめる時間に行っているようです。メンバーの中山美咲さん（芸専4年）は、「毎年ワークショップで忙しく、活動を振り返ったり学内の人に伝えたりすることがあまりできていなかった。10年目を迎える来年に向けて、今年はまとめの年にするようになった」と話します。

11月6、7日にオンラインで開催された芸術祭には初めて企画を出展。活動をまとめたウェブサイトを作成・公開し学内外にこれまでの活動を伝えました。2022年2月1～4日にはより規模の大きな展示会を6A棟のエントランスで開催する予定です。展示会では、結の器プロジェクトのOB・OGや参加者へのインタビューも公開されるとのこと。メンバーの宇根和花奈さん（同3年）は、「今年の活動をきっかけに、学内外の多くの人に結の器プロジェクトを知ってもらえたら」と話しています。

東日本大震災の被災者を支援するために始まった結の器プロジェクトは、9年目を迎えた今、地域の方々に寄り添う企画であり続けています。メンバーは代々変わりながらも「やきものを通して地域の人々のゆるやかなつながりを作る」という思いは受け継がれています。今回お話をお聞かせいただいた現メンバーの方々は、その思いがこの先ももっともっと続くように、プロジェクトを進めています。

これまでの総まとめを見るために、2月の展示会に足を運んでみてはいかがでしょうか。

（人文・文化学群 比較文化学類2年 山田優芽）

## 3. TX と筑波大生



TXに乗りながらこう考えた。遅延によって遅刻すれば角が立つ。駅の階段では人波に流される。満員電車は窮屈だ。とにかく「宅通」は生きにくい。

「宅通」といえばこのようなイメージをお持ちの方も多いのではないでしょうか。私は学群生の頃から千葉県にある実家から「宅通」しています。大学院へと進んだ今でもそれは変わってなく、もう「宅通」歴は5年目。概算したところ、大学入学から現在まで実家と大学の往復だけで地球を1周半相当の距離を移動したことになりますが、そうした生活を支えてくれているものの一つにTX（つくばエクスプレス）があり、私はTXに特別な思い入れを抱いています。今回はこの「宅通」ということを、それを行っている学生の立場からご紹介させていただきたいと思います。

はじめに、「宅通」の学生がどのくらい存在するのか、ということですが、筑波大学に在籍する学生のうち、学生宿舎や民間のアパート・マンションに居住している学生が全体の81.7%に及ぶのに対し、実家から通学している学生は全体の16.5%とかなり少数なほか、TXを利用し通学している学生は全体の10%ほどと、私のようなTXを利用する「宅通」は筑波大学の中ではマイノリティであることがわかります（『平成29年度筑波大学学生生活実態調査（学群）報告書』より）。そのため、「宅通」であることを初対面の人に話すと、大抵の場合、まず意外そうな反応があり、その後に「大変だね」という返事が憐憫の目と共に返ってきます。一般的なイメージとして、「宅通」は「多苦痛」とも言われるように、辛く大変な生活を送っていると思われがちのようです。

確かに「宅通」の学生の多くは様々な制約を負っています。例えば、8時40分から始まる1限がある日などは、僕の場合、6時に起きて7時に家を出なければ、遅刻となってしまいう上、朝の電車は下り電車とは言え、混雑します。また、夜遅くまで行われる飲み会なども泊まる場所の目途が立たないと、常に時計の針を確認し、終電・終バスを逃さないように気を払う必要がある上、多くの場合、会を中座して帰宅する羽目になります。その時の寂しい、悲しい気持ちは言い表すことが出来ません。

このように考えたら、確かに「宅通」が「多苦痛」といわれるのも否定できない事実であるようにも思われます。しかしながら、私は「宅通」がそこまで苦しみに満ちたものであるという意見に必ずしも賛同できません。それは、この実家と大学との往復という行為は単に苦痛の集合ではなく、オプティミスティックな意味が込められているような気がしているからです。そしてこのことには、TXという存在が大きく関係しているように私には思われるのです。

例えば、1限から6限まで授業があって心身ともに疲れ果てた日。大学から家へと帰るTXの車内は良い休息の場となります。一日学んだこと、起こった出来事を頭の中で整理しながら車両の揺れに身を任せながらうとうとする。すると既に電車は降りる駅に着いていて、疲れが少しばかり取れる感覚。

または、読みたい本がある時や調べものをしなければいけない時。TXの車内は良き作業スペースとなります。移り変わる車窓をバックグラウンドに好きな小説に読み耽ったり、レポートなどの調べものを済ませたり。

あるいは、眠い目を擦りながらつくば行きの電車に乗った朝。万博記念公園駅を過ぎ、研究学園駅に向かう電車が大きな右カーブを描いた時に進行方向左側に大きく車窓に映る筑波山。これから大学に向かって勉強するんだ、という自覚。

こうしたぼんやりとしたイメージを私は「宅通」とTXを考えた時に想起するわけです。



家と大学との中間地点としての TX は家という私的空間と大学といういわば公的空間を綺麗に分離させ、また媒介し、両者を繋ぎとめている。そのことによって、生活にメリハリが生まれているような気がしますし、その中間地点だからこそできることもあると思います。このようなことを考えれば、「宅通」も悪いところばかりではないな、という気にもなってくるわけです。

卒業生の皆さんの中には本稿で取り扱った「宅通」学生だった方もいれば、つくばで生活し、様々な経験をした方もいることと思います。そしてその生活のイメージも多種多様でしょう。つくばに来る際に、そうした記憶を丹念に思い返すことは、良き再体験のトリガーになるのではないのでしょうか。それが良いものであれ、あまり良くないものであれ。



TX 車窓から筑波山を望む（研究学園駅手前）

（人文社会科学研究群 人文学学位プログラム1年 加藤総一郎）

#### 4. ペデの今 課題と展望（上）



私事で恐縮ですが、秋風も吹き始め、涼しくなってきた10月から自転車で通学しています。1年生の頃は基本的に自転車で通学していたのですが、運転免許を取得してからはつつい車で通学することが多くなっていました。運動も兼ねた自転車通学ですが、四季の移り変わりを肌で感じることができ、なかなかいいものです。

自転車通学でお世話になるのが、このメールマガジンの名前の由来にもなっているペDESTリアンデッキ（歩行者自転車専用道路）。学内では、一の矢学生宿舎—筑波メディカルセンター病院（つくば市天久保）間の約4キロを結びます。「つくば公園通り」（全長約10キロ）の一部を担っており、つくば駅前を經由して南は赤塚公園（同市稲荷前）までつながっている。

ます。筑波大出身者にとっては懐かしく思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

学内のペデは、1975 年の中地区（第一・二・三エリアなど）—体育・芸術エリア間の開通を皮切りに、1970 年代後半に整備が進みました。開通から 50 年弱が経過した今、ペデはさまざまな課題を抱えているといます。ペデの現状と今後の展望について、全 2 回で追います。



ペデは、自転車だけでなく歩行者も多く利用する

#### ■想定外の交通集中

ペデが抱える課題の一つは、計画当初よりも昼間の交通量が増えたことで、多くの交通集中が起きてしまったことです。施設整備課の小沢光雄専門員によると、「新構想大学」として開学した筑波大では、開学当初は少人数のゼミ形式の授業が中心だったといます。更に、当時是一个のエリア内で授業が完結することが多かったため、朝に各学生宿舎から教室がある中心部へ移動した学生は、昼間はあまり移動しませんでした。夕方中心部から宿舎方面に多くの学生が移動したため、朝夕に一方向に交通量が多いという状況でした。

しかし、大教室を備えた講義棟が設置されたことで大人数の学生が移動することに。ほかのエリアで開設されている授業も取りやすくなったこともあり、授業間の休み時間に移動する学生が急増しました。朝夕以外の時間帯に、多くの学生がさまざまな方面から移動するようになることは、想定外でした。そのため、道幅が狭い箇所もあるペデに両方向から多くの学生が移動することになり、人が溢れることになりました。

コロナ禍でオンライン授業が中心になってからは、学内の人出も急減し、交通集中も起きにくくなっていますが、かつては下り坂から上り坂に変わる大学会館前では、休み時間に自転車の渋滞が頻発していました。授業間の休み時間には、教室移動をする学生でペデは埋まり、狭い道を自転車で速いスピードですり抜けようとする人もいるなど、危険な光景もしばしば見られました。授業に遅刻してしまうのではないかとという焦りもある中で、渋滞が危険な走行を生み出していたのかもしれない。



自転車による渋滞が頻発していた大学会館前

#### ■駐輪でタイル破損

ペデでは、タイルの破損も進んでいます。ペデには、第一エリアや体育・芸術エリア、筑波大附属中央図書館前などタイルが敷き詰められている箇所があります。タイル敷きのペデは、筑波大の景観の一部にもなっていますが、タイルにはアスファルトと比べ、壊れやすいという欠点があります。

小沢専門員は「自転車置き場が悪さをしている」と話します。タイルは、自転車が通行するくらいではヒビは入りませんが、自転車を駐輪するためにスタンドを立てると、タイルに衝撃がかかり、小さなヒビができてしまいます。負荷が何度もかかると、割れたり粉々になったりします。破損を受け、全面的に貼り替えた箇所もあるとのことですが、再び割れてしまった箇所も出てきているといいます。授業が実施される教室の近くに自転車を駐輪する場合は、ペデ上の駐輪スペースに置くことになることが多いため、抜本的な解決は難しいようです。



割れてしまったペデのタイル（第一エリア）



今回は、交通集中やタイルの破損といった学内のペデが抱える課題についてお伝えしました。次回は、課題に対する対策や今後の展望などについて取り上げる予定です。

(人文・文化学群人文学類4年 西村大祐)



### 編集後記

ペデジャーなる秋号をお読みいただきありがとうございました。編集後記を執筆している現在、つくばでは例年に比べて秋が短く感じられ、すぐにでも冬の足音が聞こえてきそうな今日この頃であります。読者の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、今号では『筑波山「へ」のぼる 後編』、『結の器プロジェクト』、『TX と筑波大生』、『ペデの今 課題と展望 上』、の4本の記事が揃いました。秋風が吹く筑波山に、芸術の秋にぴったりな「結の器プロジェクト」、読者の皆様にも馴染み深いTX とペDESTリアンデッキとバラエティ豊かな記事をお届けできたかと思えます。

2021年も暮れに近づいてきています。読者の皆様もそれぞれの場所でお忙しくなるとは思いますが、時節柄くれぐれもご自愛ください。また、冬号でお目にかかれたらと思えます。

(生命地球科学研究群 地球科学学位プログラム1年 中村瑞歩)



## 大学評判アンケートへのご協力をお願い



英国クアクアレリ・シモンズ社(QS社)が発表するQS世界大学ランキングというものが、あります。この中で世界中の大学の評判についてアンケート調査が行われています。

このアンケートでは企業の方からの回答も重要な要素であり、大学の国際的評価の向上につながります。

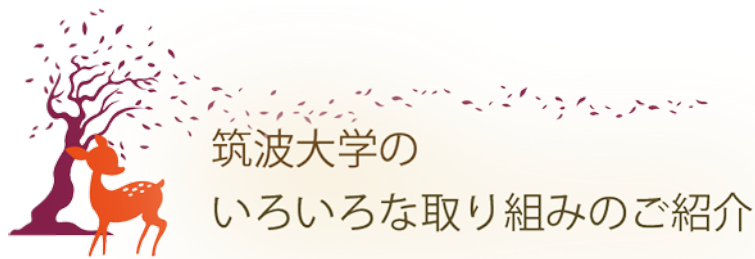
企業にお勤めの卒業生の皆様には、是非このアンケート調査へのご参加をお願いします。

現在、アンケート回答候補者のエントリーを下記のフォームで行っておりますので、ご登録よろしくお願ひします。

### 【QS 評判調査参加登録フォーム】

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/governance/regi/qs-survey-alumi.html>

(筑波大学 学術情報部情報企画課情報ガバナンス担当)



## 第24回(令和3年度)ホームカミングデーを開催しました！！

11月6日(土)に第24回(令和3年度)筑波大学ホームカミングデーを開催しました。

ホームカミングデーは、本学(旧図書館情報大学を含む)卒業生・修了生と教職員等が交流を深め、本学との絆を一層深めていただくことを目的として毎年開催しています。

ご参加くださいました卒業生・修了生の皆さま、誠にありがとうございました。

今回のご招待対象者

- ・卒業後20年(平成9年度学群入学、平成13年度大学院入学)の卒業生・修了生
- ・卒業後5年(平成24年度学群入学、平成28年度大学院入学)の卒業生・修了生
- ・現任教職員、退職教員、寄附者 等

筑波大学の風景と「Home Coming Day University of Tsukuba」のロゴが描かれたポスター。右側にはイベントのスケジュールが記載されている。

**第1部 オンライントーク (18:00-19:30)**

1. 東京オリパラメダリスト大集合 SP  
メダル獲得の秘訣と選手の個性に迫る！  
     
永瀬真澄選手 榎原悠未選手 政原大輔選手 高橋利恵子選手
2. ツクバナーシ  
在学生と卒業生の対談企画。大学イメージ大調査！
3. 筑波大学クイズ 筑波ふしぎ発見！！  
日本を虜にする筑波の魅力へご招待

**第2部 オンライン交流会 (19:45-21:00)**

コミュニケーションツール oVice にて開催  
※卒業後5年、20年を対象

2021.11.6 Sat. 18:00~

なお、各動画は下記のリンクからご覧いただけます。

○プログラム

【第1部】オンライントークショー (English) (Facebook)

(1) 『東京オリパラメダリスト大集合SP』メダル獲得の秘訣と選手の個性に迫る (English)

出演：平岡 拓晃 (体育系・助教)、永瀬 貴規 (体育専門学群卒業・柔道男子 81 キロ級金メダリスト)、梶原 悠未 (人間総合科学研究群 2 年次・自転車女子オムニアム銀メダリスト)、藤原 大輔 (体育専門学群卒業・パラバドミントン混合ダブルス銅メダリスト)、高橋 利恵子 (人間総合科学研究群 2 年次・ゴールボール女子銅メダリスト)

(2) 『ツクバナーシ』 在学生と卒業生の対談企画 大学イメージ大調査 (English)

出演：堀田 誉 (自然科学類卒業)、岡冨 陽子 (人間学類卒業)、刑部朱音 (人文社会科学研究群 1 年次)、和田 優斗 (情報メディア創成学類 1 年次)

(3) 『筑波大学クイズ 筑波ふしぎ発見!!』日本を虜にする筑波の魅力へご招待 (English)

出演：堀下 恭平 (生物資源学類卒業)、小栗 あおい (社会学類 2 年次)、守屋 俊甫 (人間総合科学研究科修了)、王 旭驊 (人間総合科学研究群 2 年次)、島田 由美子 (システム情報工学研究科修了)

【第2部】オンライン交流会

📍 Twitter、Facebook で筑波大学の情報を発信しています



事業開発推進室では、大学や在学生の「今」を伝えるため卒業生に向けて Twitter、Facebook でも情報を発信しています。

学生の様子、学内の景色や、大学の取り組みなどはもちろん、在学生・卒業生が交流でき

るような企画を増やしていきます。

卒業生が楽しんでいただけるお知らせやその他イベントについても告知していきますので、ぜひフォローをお願いいたします。発信してほしい情報がありましたらお知らせください。



Tsukuba Futureship (筑波大学)  
Facebook



TSUKUBA FUTURESHP (筑波大学公式)  
Twitter


 筑波大学大学基金 <https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/>


 筑波大学アプリ「TSUKUBA FUTURESHP」


<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/futureship.app/>

 日経 VR「オープンキャンパス360～筑波大学～」

[https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/NIKKEI\\_VR/](https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/NIKKEI_VR/)

 編集・発行:「ペデジャーなる」編集ワーキンググループ

 デザイン・配信作業:国立大学法人筑波大学事業開発推進室

 ご意見・問い合わせ先:国立大学法人筑波大学事業開発推進室

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1-1

TEL:029-853-2030 FAX:029-853-6576

メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。

© 2021 University of Tsukuba.

ペデジャーなるのバックナンバーはこちらから  
[筑波大学メールマガジン“ペデジャーなる”\(tsukuba.ac.jp\)](https://tsukuba.ac.jp)

配信先・ご住所等の変更は以下のフォームよりご登録をお願いいたします

登録フォーム：<https://forms.office.com/r/0ndsbfM04q>